

種から育てた 美山の
苗木で始める森づくり

2026 Autumn
Join us in planting native trees.

木、うえよ♪

旧鶴ヶ岡小の裏山に、今年は400本の苗木を植えます

トチ・カエデ・シデ・サクラなど多様な樹種の苗木を、約400本植えます。
10年、20年と時を重ね、自分が植えた苗木がやがて森を形づくっていく…
そんな未来に思いを馳せながら「木、うえよ♪」なひとときを過ごしましょう。

11/15 [日] 9:00-12:00

当日タナセン前広場では「実りの秋まつり」
(屋台あり)が開催中

小雨決行 ※荒天時は11/23 (月・祝) に延期

集合：旧鶴ヶ岡小学校

参加費

無料

定員 (先着順)

30名

対象

小学生以上

(未就学児は保護者同伴のこと)



お申し込みは
コチラから
おはやめに！



問い合わせ先：芦生タカラの森 ashiu.takara@gmail.com



持ち物等の詳しいご案内は、お申し込みくださった方に
追ってメールで送らせていただきます



主催：美山町森林組合・芦生タカラの森

後援：鶴ヶ岡振興会

南丹市の支援を受けて
実施しています

01 森が育つはずだった場所で

30年ほど前までは、木を伐ったあとの山に、まわりの森から飛んできた種や、切り株から出てきた芽が育ち、時間をかけて森が元の姿に戻っていました。しかし最近では、シカの数が増えすぎてしまい、芽や幼樹が食べられてしまうようになりました。そのため、山が自然に回復することが難しくなっています。



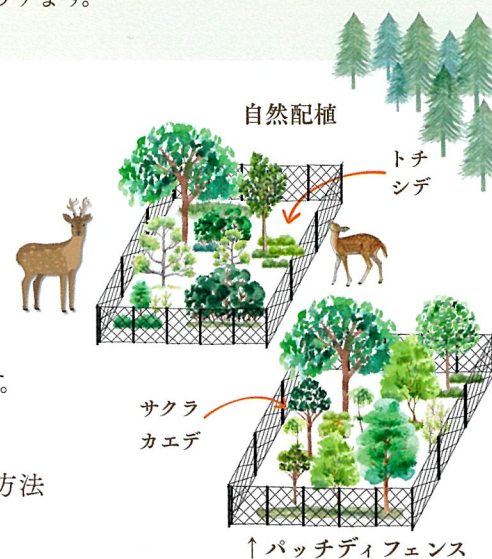
03 どんどん進む山の放置

さらに、追い打ちをかけるように、高齢化による後継者不足や過疎化によって、人工林が「終活」として伐採され、そのまま放置されるケースが増えてきています。こうした状況が続くことで、「山が山でなくなる」ような変化が少しずつ広がりつつあります。

新しい、森の育て方

地域に自然に分布する樹木から種を採り育てた「地域性苗木」を植えることで、木が植えられていない場所を減らし、生きものの多様性を取り戻すことを目指しています。この方法は、長い目で見て環境や防災の面でも地域にとって大きなメリットがあります。特徴的なのは、次の2つの工夫を組み合わせていることです。

- ①パッチディフェンス：防鹿柵を小さな区画(パッチ)状に設置する方法
- ②自然配植：地域の植生に合わせて、広葉樹などの苗木を自然な形で配置する方法



これらは新たな森林再生のかたちとして、近年注目されている取り組みです。

美山町内では4ヶ所で森林再生に取り組んでいます。鶴ヶ岡では2025年秋より開始、継続して育林をしていく予定です。



私が大好きな「森」を、この手で植えることができて嬉しいです。この木が大きな森の一部となるのを見ることができる日を待ち望んでいます。

谷本夏萌
(小学5年生)

1歳の娘とともに苗づくり～植林ができ、その後も一緒に成長を見守れる貴重な機会をいただいています

さやこ
(京北町在住)

小さな防鹿柵でも、その内側には小さくても力強い森が育ち始めています

鹿取 悦子
(芦生タカラの森 代表)
@ashiutakaranomori

美しい山の恵みを次世代につなぐ一歩として、この活動を広げていきたいと考えています。

前田 好久
(美山町森林組合 組合長)
@miyama_forestry



芦生タカラの森



森づくりの協力者募集！

地域性苗木を生産してみたい方、所有山林を多様性のある森に転換したい方、森づくりの実践に協力してくださる方など、私たちの活動にご関心のある方はご連絡・お問い合わせください。